

知事の米国訪問の結果について

〔日付表示は現地時間〕
〔組織名称は一部略称使用〕

1 全体概要

5年に1度の「NPT 運用検討会議」がニューヨークで開催されるのを機に、米国を訪問し、NPT 運用検討会議でのシンポジウム開催や延べ17回の会談等を通じ、本県の平和の取組と併せて各国の政治指導者の被爆地訪問の重要性を発信した。

【訪問日程】平成27年4月23日(木)～5月2日(土)

【訪問場所】ワシントン，ニューヨーク，サンフランシスコ

(1) NPT 運用検討会議への参加

- シンポジウムの開催
- 国連幹部や各国政府代表等との面談（4回）
 - ・国連軍縮問題担当上級代表，メキシコ政府代表，ペルー政府代表，国連日本政府代表部大使

(2) 政府関係機関及び研究機関等訪問

- 政府関係機関（4回）
 - ・米国国務省国務次官，米国国家安全保障会議（NSC）軍縮・不拡散シニアディレクター，米国連邦議会日本研究グループ議員，米国連邦議会調査局（CRS）関係者
- 研究機関（5回）
 - ・笹川平和財団米国関係者，外交問題評議会（CFR）日本研究上席研究員，核脅威イニシアティブ（NTI）会長，マンスフィールド財団理事長，スタンフォード大学教授
- その他有識者（4回）
 - ・フーバー研究所研究員，グローバル・ゼロ創設者，元米国国務長官，元米国国防長官

(3) 会合等への参加

- 米国連邦議会日本研究グループ・笹川平和財団米国主催の会合
- ヒロシマ・ナガサキアピール集会への参加
- 「国連原爆展2015」オープニングへの出席

(4) その他

- アーリントン国立墓地での献花

2 主な内容

(1) NPT 運用検討会議への参加

ア シンポジウムの開催【4月29日(水): ニューヨーク】



「核兵器の非人道性と法的枠組み」をテーマとして、NPT 運用検討会議に参加する政府代表団、国連機関、NGO 関係者等を対象に、多数の参加者を得て、シンポジウムを開催し、本県の取組を効果的に発信した。

冒頭、岡村 国連日本政府代表部次席代表の挨拶後、知事から、近年、核兵器廃絶に向けたアプローチに関して、核兵器保有国と非保有国の間の考え方の相違が、対立に発展し、核軍縮の進展を困難にしているとの現状認識が示された。

その上で、意見の違いを乗り越えるため、核兵器の悲惨さを深く理解してもらうことが必要であり、NPT 運用検討会議の合意文書において、被爆地訪問が各国の行動規範として求められるよう、各国に働きかけていることを報告し、支援と協力を訴えた。

広島市長、アンゲラ・ケイン国連軍縮問題担当上級代表、オーストリア政府代表、国際反核 NGO 関係者など、登壇者は、いずれも被爆地を訪問した経験を持っており、その経験を踏まえながら、核兵器廃絶を訴える姿勢には、説得力があるとともに、充実した意見交換となった。

また、本県出身の高校生が、質疑を通じて、核兵器廃絶への真摯な思いを登壇者に訴えた。

イ 国連幹部や各国政府代表等との面談

(7) 国連幹部との意見交換【4月27日(月): ニューヨーク】



アンゲラ・ケイン国連軍縮問題担当上級代表と会談。本県の「国際平和拠点ひろしま構想」に関する取組を説明するとともに政治指導者の被爆地訪問について協力を要請した。上級代表からは、事務総長の勧めに従って、2012年に初めて訪問した広島で感情を揺さぶられる経験をしたこと、広島は道徳的な重みを持っており、政治指導者の広島訪問が核兵器廃絶に向けてより良い方向に進むこと

につながるなどの意見をいただいた。また、広島県の平和の取組に関して、核軍縮につながることであれば、どのような協力も惜しまないとの約束をいただいた。

(4) メキシコ政府代表との意見交換【4月28日(火): ニューヨーク】

新アジェンダ連合の一員であり、昨年、核兵器の人的影響に関する国際会議を主催するなど、核軍縮に積極的に取り組んでいるメキシコのホルヘ・ロモナコ大使と会談。

広島県の平和に関する取組を説明するとともに政治指導者の被爆地訪問について協力を要請した。大使からは、広島訪問の印象と被爆地訪問の重要性が語られると

ともに、核兵器の人的影響を検証することにより、核兵器の問題を感情的なものから理論的なものへと変えていけるとの話があった。また、被爆70年の節目となる今年は、核兵器保有国と非保有国とが足並みを揃える最後の機会ではないかとの意見をいただいた。

(ウ) ペルー政府代表との意見交換【4月28日(火)：ニューヨーク】

今回のNPT運用検討会議において、核軍縮の問題を取り扱う主要委員会Iの議長を務めるロマン・モレイ大使と会談。

広島は、世界の人々が安全な世界に暮らすためにはどのような共通認識が必要かを提示してくれる場所であり、市民は一生に一度は広島を訪れるべきであると、被爆地訪問の意義を評価。主要委員会Iの議長として、核軍縮の進展に向けて最善を尽くしたいとのコメントを得た。

(イ) 日本政府代表との意見交換【4月29日(水)：ニューヨーク】

吉川国連代表部大使と会談。NPT運用検討会議の合意文書で政治指導者の被爆地訪問を行動規範として求めることに対する協力を要請し、日本政府としても国連においても被爆地訪問を働きかけており、認識は高まっているとの回答を得た。

(2) 政府関係機関及び研究機関等訪問

ア 政府関係機関

(ア) 米国国務省高官との意見交換【4月23日(木)：ワシントン】



ローズ・ゴッテモラー国務次官と会談。ひろしまレポートや昨年とりまとめたひろしまラウンドテーブル提言など本県の「国際平和拠点ひろしま構想」に関する取組を説明した。

政治指導者の被爆地訪問を実現するため、NPT運用検討会議の合意文書において、被爆地訪問が各国の行動規範として求められるような様々な働きかけを行っていることに対して、「それは良い考えだ。世界の人々が核兵器の

影響を切実なものとして経験するために広島を訪問すべきだ。」と評価いただいた。

同次官からは、NPT運用検討会議は、核兵器の非合法化を巡って、核兵器保有国と非保有国の間に溝が生じていることに懸念が表明され、知事は、「核兵器国と非核兵器国が分断されるようなことになってはいけない。核兵器国が主張する『ステップ・バイ・ステップ』アプローチによる核軍縮が進んでいない状況に、非核兵器国は不満を募らせている。核兵器国としてアクションを取ることが必要である。」と発言した。

(イ) 米国国家安全保障会議 (NSC) 関係者との意見交換【4月23日(木)：ワシントン】



ジョン・ウォルフスタール軍縮・不拡散シニアディレクターと会談。ひろしまレポートや昨年とりまとめたひろしまラウンドテーブル提言など本県の「国際平和拠点ひろしま構想」に関する取組を説明。政治指導者の被爆地訪問について協議した。同氏からは、広島メッセージは、単に歴史に関するものではなく、核兵器保有国と非保有国の間の触媒となりうるとの発言があった。

(ウ) 米国連邦議会日本研究グループ議員との意見交換【4月23日(木):ワシントン】

今年2月の日本研究グループの来広時に表敬を受けたジョセフ・ケネディ下院議員と会談。ひろしまレポートや昨年とりまとめたひろしまラウンドテーブル提言など本県の「国際平和拠点ひろしま構想」に関する取組を説明。政治指導者たちの被爆地訪問等について協議した。議員からは、全ての米国議員が広島を訪問すべきとの発言があった。※ケネディ議員は、ケネディ駐日米国大使のいとこの息子であり、ロバート・ケネディ元司法長官の孫。

(エ) 米国連邦議会調査局(CRS)関係者との意見交換【4月24日(金):ワシントン】

同調査局職員や議員スタッフ等と意見交換。政治指導者たちの被爆地訪問、日米関係の現在の動向と将来の方向性等について協議した。特に、核兵器国の政治指導者の被爆地訪問に関して、その可能性や実現のための方策等について、活発な意見交換がなされた。

イ 研究機関

(ア) 笹川平和財団米国関係者との意見交換【4月23日(木):ワシントン】

ダン・ボブ シニアディレクターと会談。政治指導者の被爆地訪問や日米関係について協議した。また、同財団と米国連邦議会日本研究グループが主催する会合に、同氏がパネリストとして参加することから、日米関係を含む国際関係等について意見交換した。

(イ) 外交問題評議会(CFR)関係者との意見交換【4月23日(木):ワシントン】

シーラ・スミス上席研究員と会談。ひろしまレポートや昨年とりまとめたひろしまラウンドテーブル提言など本県の「国際平和拠点ひろしま構想」に関する取組を説明。政治指導者たちの被爆地訪問や日米関係を含む広い意味での国際関係等について意見交換した。

(ウ) 核脅威イニシアティブ(NTI)関係者との連携強化【4月24日(金):ワシントン】



ジョアン・ロルフイング会長等と会談。政治指導者たちの被爆地訪問、ひろしまレポート、復興平和構築研究レポート、ひろしまラウンドテーブル提言など、本県の「国際平和拠点ひろしま構想」に関する取組について説明した。NTIが進める若者の教育に関するプロジェクトとの連携の可能性について提案を受け、共同事業の実施に向け、検討を継続していくこととした。

(エ) マンスフィールド財団関係者等との意見交換【4月24日（金）：ワシントン】



フランク・ジャヌージ マンスフィールド財団理事長をはじめとする在ワシントンの研究機関関係者計12団体と意見交換会（主催：マンスフィールド財団、戦略国際問題研究所（CSIS））。冒頭、知事から、ひろしまレポートやひろしまラウンドテーブル提言など、本県の「国際平和拠点ひろしま構想」に関する取組を紹介。特に、核兵器国の政治指導者の被爆地訪問に関して、その可能性や実現のための方策等について、活発な意見交換がなされた。

(オ) セーガン スタンフォード大学教授との意見交換【4月30日（木）：サンフランシスコ】

核兵器国の政治指導者の被爆地訪問に関して、その可能性や実現のための方策等について意見交換を行ったほか、今夏予定されるひろしまラウンドテーブルについて協議した。

ウ その他有識者

(ア) グッドビー フーバー研究所研究員との意見交換【4月25日（土）：ワシントン】

スタンフォード大学フーバー研究所の研究員で、シュルツ元米国国務長官の研究所の同僚でもあるジェームス・グッドビー元駐フィンランド米国大使と会談し、今後、核軍縮を進めるための方策等について意見交換を行った。

(イ) グローバル・ゼロ関係者との意見交換【4月29日（水）：ニューヨーク】

平成24年7月の来広時に表敬を受けた、グローバル・ゼロ創設者であるブルース・ブレア氏等と会談。核軍縮に向けたグローバル・ゼロの取組と本県の取組について意見交換を行った。

(ウ) シュルツ元米国国務長官との意見交換【4月30日（木）：サンフランシスコ】



ジョージ・シュルツ元国務長官と会談し、今後、核軍縮を進めるための方策や機運醸成の必要性等について意見交換を行った。同氏からは、歴代米国政権の核政策の変遷の紹介があったほか、核兵器の近代化及び最近の核軍縮に向けた取組の停滞に対する憂慮の表明がなされた。

(エ) ペリー元米国国防長官との意見交換【4月30日（木）：サンフランシスコ】

ウィリアム・ペリー元国防長官と会談し、今後、核軍縮を進めるための方策や機運醸成の必要性等について意見交換を行った。同氏からは、核脅威イニシアティブ（NTI）と連携して進められている、若者向けの核軍縮に関する教育ツール開発プロジェクトの紹介があったほか、今夏広島で開催されるCTBT賢人グループ会合及び国連軍縮会議への期待の表明がなされた。

(3) 会合等への参加

ア 米国連邦議会日本研究グループ・笹川平和財団米国主催の会合でのスピーチ 【4月24日（金）：ワシントン】

広島県の紹介、広島での平和に関する取組、政治指導者たちの被爆地訪問などについてスピーチした。

イ ヒロシマ・ナガサキアピール集会参加【4月27日（月）：ニューヨーク】



平和首長会議（会長：広島市長）が主催するヒロシマ・ナガサキアピール集会に参加し、広島での取組を紹介するとともに政治指導者の被爆地訪問を訴えた。会議の最後には政治指導者の被爆地訪問をNPT運用検討会議の最終文書に盛り込むことを強く求めるアピール文書が採択された。

ウ 「国連原爆展2015」オープニングへの出席【4月27日（月）：ニューヨーク】

日本原水爆被害者団体協議会が主催する「国連原爆展2015」のオープニングに参加した。会場でスウェーデンの外務大臣と面談し、広島での取組を説明するとともに政治指導者の被爆地訪問への協力を依頼した。

(4) その他

○ アーリントン国立墓地での献花【4月25日（土）：ワシントン】

アーリントン国立墓地を訪問し、第二次世界大戦の戦没者を記念した記念樹に献花。犠牲者への追悼を行うとともに、大戦の悲劇が繰り返されないよう誓った。

3 成果

- 国連でのシンポジウムの開催や国連、政府関係者等との会談を通じて、本県の取組を紹介したところ、多くの賛同と期待を表明いただいたところであり、本県の取組の意義深さを改めて確認することができた。
とりわけ、政治指導者の被爆地訪問については、NPT運用検討会議の最終合意文書に含まれるよう、政府関係者等へ、限られた時間の中、効果的な働きかけを行うことができた。
- 今後とも、今回の訪米で会談した方々とも連携を密にしながら、政治指導者が被爆地を訪問しやすい環境づくりに取り組むこととする。
- その他、NTIでは共同プロジェクトの可能性について提案いただいたところであり、今後、具体化に向けて取り組むこととする。

4 日 程 平成 27 年 4 月 23 日 (木) ~5 月 2 日 (土)

月 日	時 間 (現地時間)	項 目	場 所
4/23 (木)	(移 動) 12:00~ 13:30~ 15:00~ 16:00~ 17:15~	成田発 ワシントン DC 着 ・ 笹川平和財団米国シニアディレクターとの意見交換 ・ 米国国務省国務次官との意見交換 ・ 米国国家安全保障会議 (NSC) 軍縮・不拡散シニアディレクターとの意見交換 ・ 外交問題評議会 (CFR) 関係者との意見交換 ・ 米国連邦議会日本研究グループ議員との意見交換	ワシントン
4/24 (金)	10:00~ 12:00~ 14:00~ 16:00~	・ 米国連邦議会調査局 (CRS) 関係者との意見交換 ・ 米国議会日本研究グループ・笹川平和財団米国主催会合でのスピーチ ・ 核脅威イニシアチブ (NTI) 会長との意見交換 ・ マンスフィールド財団理事長等との意見交換	ワシントン
4/25 (土)	09:00~ 11:30~	・ フーバー研究所研究員との意見交換 ・ アーリントン国立墓地にて献花 ワシントン DC 発 ニューヨーク着	ワシントン ニューヨーク
4/26 (日)		ニューヨーク滞在	ニューヨーク
4/27 (月)	10:00~ 14:00~ 17:00~ 18:00~	・ NPT 運用検討会議傍聴 ・ ヒロシマ・ナガサキアピール集会参加 ・ 国連軍縮問題担当上級代表との意見交換 ・ 「国連原爆展 2015」オープニングへの出席	ニューヨーク
4/28 (火)	10:00~ 16:10~ 16:30~	・ NPT 運用検討会議傍聴 ・ メキシコ政府代表との意見交換 ・ ペルー政府代表との意見交換	ニューヨーク
4/29 (水)	10:00~ 12:15~ 12:40~ 13:15~14:30	・ NPT 運用検討会議傍聴 ・ 吉川国連日本政府代表部大使との意見交換 ・ グローバル・ゼロ関係者との意見交換 【県主催シンポジウム】 ◆ テーマ：核兵器の非人道性と法的枠組み (スピーチ) ・ 岡村特命全権大使・国連日本政府次席代表 (パネル・ディスカッション) ○ パネリスト ・ 広島県知事 ・ オーストリア外務省 大使 アレクサンダー・クメント ・ 国際反核法律家協会 (IALANA) 国連事務所 核政策に関する法律家委員会 事務局長ジョン・バロー ・ 国連軍縮問題担当上級代表 アンゲラ・ケイン ・ 広島市長 ・ 原子力委員会委員 阿部信泰 ○ コーディネーター ・ 一橋大学教授 秋山信将 ニューヨーク発/サンフランシスコ着	ニューヨーク
4/30 (木)	10:45~ 13:15~ 14:00~ 15:00~ 17:30~	・ 元米国国務長官との意見交換 ・ スタンフォード大学教授との意見交換 ・ 元米国国防長官との意見交換 ・ 米国イノベーション起業家との懇談会への参加 ・ スタンフォード大学関係者との夕食会	サン フランシスコ
5/ 1 (金)		サンフランシスコ発	
5/ 2 (土)		帰国	